

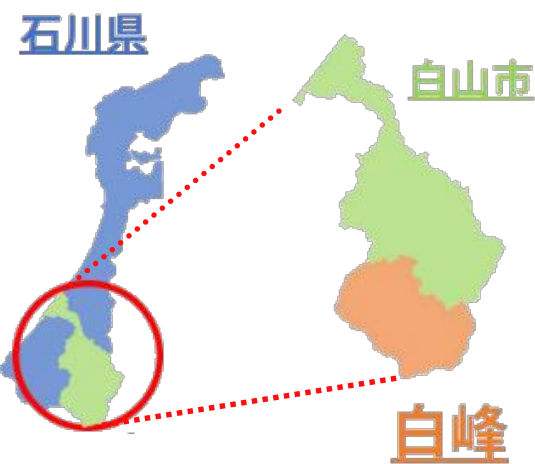


しらみね大学村の白山手取川ジオパークでの活動報告 ～大学生による水源地域振興の試み～

工藤 柊 (しらみね大学村 代表：金沢大学 融合学域 観光デザイン学類)

白峰について

石川県の最南端、白山の登山口として知られる地域。国指定天然記念物の桑島化石壁や、美人を生む絹肌の湯である白峰温泉を有する。人口は約630人。例年、身長を越す雪が積もる。



身長ほどの降雪



白山まつり



堅豆腐

しらみね大学村について

大学生が年間を通じて白峰に滞在し、「大学生の村」をつくることを理念に掲げて活動。大学生を中心とした「関係人口コミュニティ」づくりや、学生の存在によって白峰や白山麓地域がにぎわい、活気づくことを目指している。

全国から集う学生たち

メンバーの所属機関所在地に着色



石川県に限らず、全国各地から学生が集結している。2025年9月末時点での参画学生数は226名、全国22都道府県から白峰に集まっている。

関係機関との連携



▲白山手取川ジオパークの推進に関する連携協定をジオパーク推進協議会と締結

白山市、国交省、環境省、林野庁などの行政機関、各団体や企業等、関係機関と連携。

住民を助ける「クエスト」



▲白峰にある飲食店を手伝う学生の様子
美味しいまかないがお手伝いの報酬

住民の皆さんの困りごとを大学生がお手伝い。交流や各種体験の機会として定着。

水源地域振興の試み

白山手取川ジオパークは「山-川-海そして雪 いのちを育む水の旅」をテーマとして掲げている。しらみね大学村は、「水の旅」のスタート地点となる水源地域をさらに盛り上げ、ジオパークに関わるあらゆる活動に弾みをつけたいと考えている。

水辺で乾杯



▲飲み物を提供している大学生の様子
加賀で生産される日本酒は菊酒と名高い

「川の日」である7月7日の7時7分に水辺に集まって盃を交わす催しを開催。青いものを着用した住民・学生が集った。

リバーチャレンジスクール



▲大学生と子どもたちが手取川で遊ぶ様子
流される人を助ける体験にもチャレンジ

地域の子もたちと手取川について学ぶイベントを開催。手取川について五感を使って体系的に学んだ。

水源地域を健全に維持していくには、集落が元気である必要があります。水源地域の集落が縮小していくなかで、大学生の関係人口がどのように貢献していけるのか今後の展開が楽しみです。



坂本 貴啓 先生
しらみね大学村 顧問
(金沢大学 人間社会研究域 地域創造学系 講師)

総人夫(そうにんぷ)



▲土手の草を刈っている学生の様子
集落機能の維持の大変さ・大切さを痛感

集落全域を清掃・点検する行事に参加。人員が不足している班へ学生が出向き、草刈りや泥上げ等をお手伝いした。

報恩講(ほうおんこう)



▲地域住民に料理をふるまう学生の様子
溢れるほどに盛り付ける習慣がある

浄土真宗の開祖・親鸞聖人をしのぶ法要(報恩講)を大学村が主催。法要や料理などの伝統を守っていく。

買い物支援(ジゲソー)



▲地域住民が学生とともに生活雑貨を吟味している様子 並ぶ品々は100品以上

白峰では買い求めることが難しい品々の販売をお手伝い。頼まれた必要数を街へ買いに行き、住民に配達した。

今後の展開

設立から3年が経過し、さまざまな活動を展開することができました。高齢化・過疎化が進行していく農山村地域において、大学生がどのように関係人口として活躍できるのか、「しらみね大学村」はこれからも果敢に挑戦していきます。

2月6日(金) 午後 "雪だるま2026" 開催予定！

@白峰温泉総湯周辺 ※駐車協力金として普通車1台につき500円が必要です。

住民や観光客が1人1つ雪だるまを作るユニークなお祭り。雪だるまに灯りが灯されると、まち全体が幻想的な雰囲気。大学村も出店を予定しています。